

ライフラインの構築へ 水道給水パワーアップ

特集2・かさいの水道物語

このたび、兵庫県と共同で整備を進めていた水道水を供給する「栗田ポンプ所」が完成しました。鴨谷町の配水池と栗田ポンプ所の運用開始により、市内への給水能力が向上し、市内全域への県営水道の給水が可能になりました。



送水ポンプ場が完成（昭和44年頃）

生活や農業に水を取り入れてきました。昭和40年代は20%を切っていた水道普及率は急激に上がってきました。その理由の一つに加西市が行ってきた水道拡張工事がありました。しかし、昭和42年から43年にかけての異常渇水により、水源が乏しい加西市は深刻な水不足に悩まされてきました。そのため、農業用ため池の貯水を関係地区の協力により給水していました。

水源も乏しい、深刻な水不足。どうする加西市！？



加西市の水道事業の前身として、旧北条町簡易水道が昭和29年に認可を受けて運営を開始しました。水を供給する湖や川のことを「水源」といいます。琵琶湖や淀川、加古川などが「水源」にあたります。加西市には、水源として活用できる河川などが乏しく、水道水は兵庫県と近隣市町から購入してきました。水道水を引く前は、井戸を掘ったり、農業用水を貯めるため池、水を運ぶための疏水の整備など、水源がない中で工夫して、

水道の歴史

水不足・・・市川町から分水

加西市にとって、生活基盤の水道水の安定供給は、住民の切実な願いでした。市は、国や県、隣接自治体に飲料水の救援と、将来の水資源確保を要請していましたが、良い回答が得られませんでした。そこで、最後の手段として、水道事業を開始したばかりの市川町に対し、再三にわたって余水の分水を陳情しました。その状況下、市川町は加西市の熱意と隣人愛にこたえ、町内全域給水に先立ち、加西市へ分水することを英断し、ついに昭和43年、市川水系から貴重な水道用水の送水が始まりました。そして、昭和43年4月、市川町と分水契約を結び、同年9月には分水水道管敷設工事も完成しました。この「友情の水」により、長年の悩みであった水不足から解放されました。市川町からは長きにわたり「友情の水」として市川水系から水道用水を分水していただき、市内中心部および北部エリアに配水してきました。

なるほど、市川町に助けられたんだ。この歴史的事業は「友情の水」と呼ばれているんだよ。



友情は永遠

50年の時を経て、市川水系の施設も老朽化が進みました。建替えが必要でしたが、財政的にも困難であったため、両市町協議の結果、加西市は兵庫県の協力のもと水道施設を増設し、県営水道により市内全域へ送水することとなりました。

県営水道の送水施設である栗田ポンプ所が県と共同で完成し、市内のほぼ全域に県営水道による配水が可能となる環境が整ったことにより、令和4年度より1日あたりの責任水量を減量しながら令和7年度末で市川町からの受水を終了することで合意しました。友情の水は役割を遂げますが、市川町との友好関係を守り続けていきます。将来にわたる受水費の軽減が見込まれますので、市民

基本料金 0～10㎡	従量料金 (1㎡当たり)					101㎡～
	11～20㎡	21～40㎡	41～60㎡	61～100㎡	101㎡～	
家庭用	1,410	141	169	199	231	263



基本料金 0～10㎡	従量料金 (1㎡当たり)					101㎡～
	11～20㎡	21～40㎡	41～60㎡	61～100㎡	101㎡～	
家庭用	1,260	126	152	179	207	236

※家庭用以外の料金表はホームページをご覧ください。

水道料金一律 10%値下げ 全国平均より 3000円安く

栗田ポンプ所完成・稼働

教えて！かさいさん！

水道水はどこから来るの？

県営水道から受水して、高台にある配水池に水を送る施設など、多くの施設や管路を経由して運ばれるんだ。



栗田ポンプ所。奥が受水槽で手前がポンプ庫



「栗田ポンプ所パンフレット引用」

生活の負担軽減を図るため4月1日以降の検針分（4月検針5月請求分）より、水道料金の全用途（家庭用・業務用等）について、基本料金、従量料金ともに一律10%値下げします。今回の値下げにより、加西市の水道料金（家庭用…40㎡/2カ月・税込）は旧料金6820円から710円安くなり、6110円となります。これは全国平均（令和2年4月1日時点）の6614円より約500円安く、年間では約3000円安くなります。